



華となれ!

宮城県仙台二華中学校
学校だより 第4号

【発行日】 令和元年6月4日

【連絡先】 022-296-8101

【文責】 副校長 加茂 博行

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ!」には、社会に貢献できる真のリーダー（「華」＝社会の中心）となってほしいという願いを込めています。

北上川流域の環境保全に貢献 2 学年北上川フィールドワーク

夏のような強い日差しとなった5月24日に、石巻市の北上川河口付近で、2年生がFW（フィールドワーク）を行ってきました。当日は石巻でも気温が30度近くになることが予想されたので、大型のクーラーボックスに氷嚢をたくさん準備した上での実施となりましたが、水面を渡ってくる風は心地よく、全員が楽しくFWを行うことができました。

今回の目的はヨシ原の再生です。北上川河口付近一帯に広がっていたヨシ原は、人々の生活だけでなく、野鳥やヤマトシジミ、チゴガニ等の豊かな生態系を支えていました。ところが200haあったヨシ原は、東日本大震災による地盤沈下で100haにまで減少してしまっただけです。そこで、「NPO法人りあすの森」の方々が中心となって、ヨシ原の再生を促すために、移植活動を行っています。

この活動への参加は、今年で5回目となります。5年前に仙台二華中生が移植したヨシ原は、今ではしっかりと地面に根を伸ばし、まっすぐに伸びたヨシが潮風に吹かれていました。泥だらけになって、汗びしょりになりながらも、生徒の表情はどこか満足げで、頼もしく感じました。



芳を50cmほどに切りそろえ、きちんと根付くように深めに移植していきます。

北上川FWハイライト

1 干潟の観察

干潟にコドラート（一定の大きさの方形の区画）を設置して、生態系の観察を行いました。コドラート法による観察は、1年次の「泉ヶ岳巡検」で何度も経験しています。山の生態系を観察した後に、河口付近の生態系を観察できるのは、生徒たちにとってはたいへん貴重な経験になっています。砂地の下からは、ゴカイ、チゴガニ、ヤマトシジミ等、多くの小さな生き物たちを見つけることができ、いたるところで歓声が上がっていました。観察した生物は、もちろん砂辺に戻して帰ってきました。



写真中央の方形がコドラート。砂地を掘って生態系を観察します。

2 ヨシの移植

ヨシ原がなくなって砂地がむき出しになっているところに、近くの群生地からヨシを移植します。ヨシをスコップで採取し、大きすぎるヨシは50cm程度に切りそろえ、目標とする地点に移植します。

作業は、採取班、運搬班、移植班に分かれて、ローテーションですべての作業を経験しました。どれひとつとっても慣れない作業なので、生徒たちは苦勞していたようです。

ヨシの採取や移植の仕方については、東北工業大学の山田一裕先生からご指導をいただきました。大自然の再生を手助けする貴重な経験でした。



近くの群生地から採取した芳原を、再生地まで運びます。

3 ヨシについての講話

ヨシの移植を終えて、昼食をとった後に、国宝重要文化財保存修理や茅葺き工事を手がけている熊谷産業を訪問させていただきました。そこで、「NPO法人りあすの森」の武山文衛様から、ヨシ原が生態系に及ぼす役割や、ヨシ原を移植する目的について講話をいただきました。

講話の中では、ヨシを材料にして作られた「ヨシ紙」の実物も披露してもらいました。ヨシ紙は色味がよくて、しかも丈夫なため、近くの小学校では卒業証書をヨシ紙で作っているそうです。

ヨシ原の再生が、生態系にどんな好影響を及ぼすか、最後まで興味深く聴くことができました。



芳原について熱心に説明をしてくれた武山さん（写真右）。

互いの健闘を祈る 中高合同で総体壮行式開催

5月29日に中高合同の総体壮行式が開催されました。高校は6月1日（土）～3日（月）にかけて、中学校は8日（土）～10日（月）の日程で総体が開催されます（中高とも競技により日程が異なる場合があります）。選手団は目標や意気込みを、応援生徒の前で堂々と発表しました。

各チームとも「仲間や、顧問、コーチそして支えてくれた家族への感謝の気持ちを忘れずに戦いたい」と述べていたのが、たいへん印象的でした。

放課後に部活動の様子を見て回ると、どの部も制限された場所や、時間の問題を自分たちで克服しながら精一杯頑張っています。当日は練習の成果を十分に発揮し、健闘してくれることを祈っています。保護者の皆様の温かい応援をよろしくお願いします。



新体操部



女子バドミントン部